

編集委員が選んだ本

『犠牲のシステム 福島・沖縄』

高橋哲哉／集英社新書／2012年1月／740円（税別）

「ある者たちの利益が、他のものたちの生活を犠牲にして生みだされ、維持される」これが本書のテーマである。戦後日本の「平和」は沖縄の犠牲抜きには考えられない。つまり、日米安保体制は沖縄を犠牲にして成立するシステムであった。

福島で育った著者は、この「犠牲のシステム」を福島にもあてはめる。福島県の太平洋沿岸地帯は出稼ぎが多く、常磐炭坑が閉山して以降、原発を誘致することで雇用を生み出した。ここから電力を大量消費する大都市が、便利で快適な生活を享受するために、福島の貧困につけ込んで原発というリスクを請け負わせてきたと言うのである。「東京」電力の発電所が、なぜ「福島」にあるのか、その意味が説き明かされている。

『新しい歴史教育のパラダイムを拓く』

加藤公明・和田悠編／地歴社／2012年7月／3000円（税別）

歴史教育にとって注目の著作が刊行された。加藤公明は高校の日本史の授業に討論を持ち込んだ第一人者である。何度も公開授業が行われたが、参観者はそのたびごとに活発に討論する生徒の姿に衝撃を受けた。

「なぜ高校生が歴史を熱く語るのか？」本書ではその理由を、成田龍一や佐貴浩などの歴史学者や教育学者、研究サークルである歴史教育者協議会の仲間、そして加藤実践をテキストに学んでいる大学院生など18人が分析し解き明かしている。生徒が歴史認識の主体として立ち上がるからこそ、熱い討論が成立するというのが分析者たちの一貫した主張である。本書を読む上での重要なポイントである。

一人の実践者の授業をこれほどまでに徹底的に分析した類書を見たことがない。授業研究という視点からも非常に貴重な本だと言えよう。本書には加藤の『わくわく論争！考える日本史授業』・『考える日本史授業2』のPDF版と、公開授業が収録されたDVDが付録されている。討論授業が体感できると同時に、本書を読むにあたっての基礎資料となる実践記録集が二著も収録されており、加藤実践を知らない読者への配慮も行き届いている。

『資料で学ぶ日本史 120時間』

小松克己・大野一夫・鬼頭明成・石井建夫／地歴社／2012年7月／2500円（税別）

思えば新任教員で授業づくりに悩んでいた頃、『資料で学ぶ100時間の日本史』（加藤文三・本多公栄・吉村徳蔵著）を手にして教材づくりしていたことを懐かしく思い出した。歴史研究の最前線を取り入れながら、1テーマ見開き2ページで、ねらい、資料解説、図版資料をコンパクトに120時間の授業でまとめている。愛国心的教育内容を一方的に注入する歴史教科書が採択される中、「歴史から何を学ぶか」も問い直せる。

『プロメテウスの罫』

朝日新聞特別報道部／学研パブリッシング／2012年3月、1238円（税別）

人間に火を与え文明をもたらしたとされるギリシャ神話のプロメテウス。「プロメテウスの第2の火」とも言われる原子力は、事故によって人間に何をもたらしたか。2011年10月から朝日新聞紙上でスタートした『プロメテウスの罫』を書籍化したもの。改めて、東京電力、政府、マスコミ報道の機能不全ぶりと、住民の内部被ばくの懸念が浮き彫りになった。

『「脱原発」成長論 新しい産業革命へ』

金子勝／筑摩書房／2011年8月／1400円（税別）

もちろん体験したことはないのだが、「現状は、ヒトラー登場前夜と似ているのかも。」と思ってしまう。

先の見えない閉塞感。既存の政治勢力への失望感。……こんな時、「今のままでは、何も変わらない。」「とにかく何かやってくれるのでは。」と、判断を停止した人々の希望が、耳ざわりのいいことを言う、一見新しい勢力に集中してしまったら……。

それに代わる、冷静で、本質を衝いた希望が、この本にはある、と感じた。彼の提言の一、二を紹介する。

「21世紀の経済は、その基盤となるエネルギーと食料を基軸にして、地域分散ネットワーク型に変わっていくことになる。まず何よりも、自然由来のエネルギーは地域に根ざすので、地域分散型にならざるを得ない。それは地域の新たな雇用を作り出す。」「再生可能エネルギーへと切り替えていくことで、新しい技術を開発し、そこに投資を呼び込んでいくのである。」

『若者が無縁化する 仕事・福祉・コミュニティでつなぐ』

宮本みち子／ちくま新書／2012年2月／760円（税別）

失業・無業の若者の人数や、どこからも救われない実態について、戦慄する数字や聞き取り記事が並ぶ。

筆者は、「内閣府子ども・若者・子育て施策総合推進室」の企画分析会議の座長をつとめ、はたまた、「若者ホームレス支援委員会」の委員長である。

「この国はもたない。」と痛切に感じさせられ、提示されている「解決への方策」の政策化を切望する。

『さいたま謎学の旅』

山口勇／さいたま教育文化研究所／2012年1月

小学校の教員として勤めながら、埼玉の地域の民衆史の掘り起こしを進め、平和・人権・環境などの問題に取り組んできた著者が『さいたまの教育と文化』（さいたま教育文化研究所発行）に書きとめてきたものを集大成した。「数奇な運命をたどった青い目の人形」「三国峠を越えた越後の哀しき女性たち」「三蔵法師の骨は埼玉にある」「なぜ多い、秩父のホルモン焼き店」等の興味深いテーマ31本が掲載されている。

問い合わせ先 さいたま教育文化研究所

TEL 048-831-4266・2614

定価 210円（本体200円） 編修・発行 実教出版株式会社 代表者 戸塚 雄次

2012年9月20日 印刷 発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5 Tel.03-3238-7777

2012年9月25日 発行 <http://www.jikkyo.co.jp/>